

## 教養コース ⑤ 社会保障学

—すべての人に社会保障のある暮らしを—

### 第1回

# 社会保障のある暮らしは いつから？ 社会保障の展開

期日 令和3年6月19日（土）10:00～12:00

会場 鶴瀬公民館

講師: 濱畑芳和氏（立正大学社会福祉学部准教授）

参加者 23名

第1回目は、社会保障のある暮らしはいつから？ 社会保障の展開

今回は、パワーポイントを使用しての講座で、映像と資料を見ながらなので、理解がしやすかった。資料は全員に配布した。



社会保障の源流はイギリス・ドイツ

- ・貧民救済の在り方の変化 慈善活動から「国家権力」が介入（徴税し分配する）
- ・税金で貧民救済をすることへ納税者の反発 貧民救済の制限、貧民に対する懲罰
- ・労働者による相互扶助の展開 労働組合の結成（非合法から法認、争議権の承認）
- ・慈善活動も組織的に展開される、他方で社会主義活動も活発化
- 「貧困の発見」 貧困を客観的に測定し、「自己責任」から「社会問題」へ
- ・保守政党の危機感 貧困を放置すれば資本主義国家も社会主義化しかねない
- ・ドイツ 国家統一、寒力統一のために「労働者の福祉の積極的増進」

## 日本の社会保障の展開

- 軍人官吏への恩賞的役割と戦費調達が主目的当初から「収奪」
- 戦後改革による目的の正常化 保障を行うことが目的に
- オイルショック以降の「行財政改革」 元凶は高齢者人口の増大と少子化の急速な進展

## 社会保障に求められる機能

- 垂直的再配分と水平的再配分配 どちらを重視することがより納得感が得られるのか
- 「胴上げ型」「騎馬戦型」から「肩車型」へ 世代間対立を煽ることにならないのか
- 「自助・互助・共助・公助」論 公助の縮減、共助・互助の強要になっていないか



報告者 三上 聡雄